



岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

令和 7 年 / 月 20 日

岡山市長 大森雅夫 様

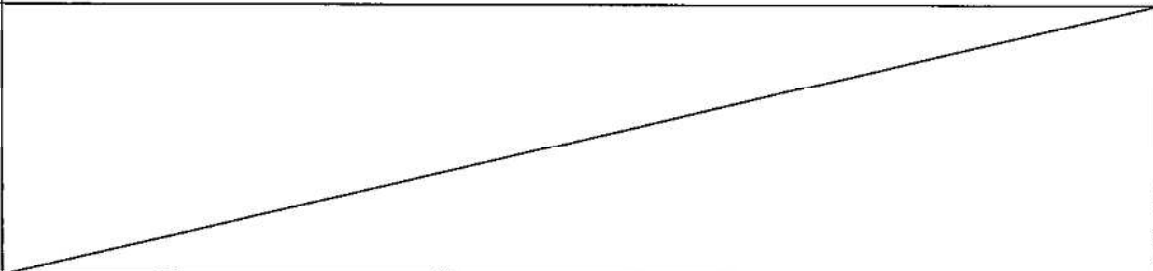
フリガナ トミヤマガックレンゴウチョウナイカイ
団体名 富山学区連合町内会
所在地
連絡先
フリガナ
代表者 役職・氏名

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	地域防災力の向上 ～災害犠牲者を出さない～
事業実施小学校区・地区	富山小学校区
事業実施回数	新規 ・ <u>継続</u> 5 回目 / 【H28年度から】
課題	・富山学区は、地理的には、東西は東は百間川から西は東山峠までと極めて長細く、南北は北は操山の麓から干拓地を中心とする平坦地となっている。 ・想定される災害は多岐にわたる。操山周辺の地域では、急傾斜地などが多く、山崩れ・土砂崩れ等の土砂災害が予想される。干拓地である平坦地地域では、倉安川・農業用水路沿いで、内水氾濫がほぼ毎年発生している。また、埋立地のため液状化現象による家屋の倒壊等が予想される。木造の戸建て住宅が多く、大規模地震発生時には、広範囲での火災発生も予想される。百間川沿いでは、堤防からの越水・堤防決壊による洪水が予想される。 ・富山学区は、昭和40年代後半から昭和50年代にかけて造成された戸建て住宅団地が点在し、高齢化が進行している。今後もさらに高齢者が増え続けることが予想される。高齢者をはじめとする自力避難が困難な要配慮者に対する声かけ・避難誘導の体制づくりが重視すべき課題である。 ・平成31年2月、学区としての実効的な防災活動を推進するために、有志による“犠牲者ゼロプロジェクト”を設立、その後4月1日付けで同プロジェクトを、学区の自主防災組織とした。実効的な声かけ・避難誘導の体制づくりには、学区内の全町内会・各種団体の参画が不可欠との判断より、年度後半からはプロジェクトメンバーを大幅に拡充した。 ・しかしながら、プロジェクトメンバーの防災に関する意識、知識のレベルにばらつきがあり、実効的な声かけ・避難誘導の体制づくりの進展は順調とは言えない。

事業の目的	●目的 災害犠牲者を出さない防災活動の実践 ●方針 【自助・近助】 自分たちでできることについての啓蒙を愚直に繰り返し、平常時の備え、災害時の適切な行動を促す。 【共助】 災害時に住民が取るべき行動を促すための、連合町内会、単位町内会レベルでの体制、仕組みを構築する。 【人材】 防災活動を主導するリーダーを育成、組織化する。
事業の内容	(1) 住民に対するマイ・タイムラインの周知（4月～6月） 計4回 令和元年度の本事業の成果としてまとめた、災害時に住民が取るべき行動「マイ・タイムライン」を、単位町内会別の講習会を通じて災害に対する早めの準備、避難の必要性を住民に周知する。 (2) 豪雨・台風時の住民に対する適切な情報伝達の実践（7月～9月） 「マイ・タイムライン」で定めた、災害時に住民が取るべき行動を促すための、連合町内会・単位町内会から住民への適切な情報伝達を、実際の豪雨・台風の発生時に実践を重ね、確実に機能するよう改善する。 (3) 避難誘導・避難者受入れ体制の構築、個別訓練（10月～3月） 住民が取るべき行動に沿った、単位町内会による避難誘導・連合町内会による避難者受入れ体制を検討し、個別の机上訓練・実地訓練を重ね、実効性を高める。その集大成として、令和3年6月に総合的な避難訓練を実施する。 (4) 避難行動要支援者の個別支援計画策定 指定避難所での避難生活では支障が想定される要支援者について、家族などとの協議を重ね、個々の要支援者に適した避難先、避難行動支援の役割分担を検討し、実効的な個別支援計画を策定する。 (5) 実効的な防災活動推進体制の構築（5月） 平成31年4月に有志にて新規結成した“富山学区自主防災会”が、実効的な防災活動を推進できるよう、その構成員・役割分担を見直すとともに、活動資金の財源として単位町内会の拠出を求める。 (令和2年5月、総会にて決議)
期待される成果・目標	●早めの避難行動の実現 連合町内会・単位町内会が組織的に声がけ・誘導することで、住民の早めの準備行動・避難行動を促し、災害発生時の被害・犠牲を減らす。 ●毎年1名以上の防災士育成 防災士講座の受講費用を学区より補助し、毎年1名以上の防災士を育成し、防災活動の推進にリーダーシップを発揮してもらう。補助する受講費用は、単位町内会の防災活動拠出金を原資として、本事業の収支予算の対象外とする。

企画などの工夫	●住民の取るべき標準行動をマイ・タイムラインとして明示 立地によるハザードの違い・家族構成の違いによって、準備行動・避難行動が異なるため、行動にあたっては自己判断・自己責任に委ねられている。しかしながら、適切な判断・行動が出来ず、逃げ遅れが多数発生している。 ハザードごと・個人の特性ごとに分解して見れば、準備行動・避難行動・支援行動は同じであり、世帯単位ではその組み合わせに過ぎない。 そこで、ハザードごと・個人の特性ごとの住民の取るべき標準的な準備行動・避難行動・支援行動をマイ・タイムラインとしてまとめ、住民に明示し、啓蒙を繰り返す。 災害時には、連合町内会・単位町内会が組織的に声がけ・誘導することで、住民の取るべき適切な行動を強力に促す。 自己判断に委ねない！ それぞれの時点で取るべき適切な行動を強力に促す
協働する団体等	・幼小中学校 防災に関する学習、防災訓練に参画する ・富山公民館 公民館主催の講習会訓練に協力し、防災に取り組む他、連合町内会の会議・町内会・自主防災会単位の防災講習会・訓練に参画してもらう。広報面では、公民館発行の「とみやまだより」への掲載を依頼。 ・学区社会福祉協議会 高齢者・障がい者対策での協力・支援を得る。 ・富山消防団 火災・災害発生時の対応、火災報知器の設置作業の依頼。 ・富山電子町内会 学区内への広報、防災関連資料等参考資料の提供 ・岡山市役所 防災研修への講師派遣、情報の提供を受ける。 ・介護・福祉施設 高齢者・障がい者対策での協力・支援を得る。
事業の情報公開	・「とみやまだより」による学区全体へのPR ・電子町内会ホームページの活用 ・公共の広報機関を通して、富山学区での取り組みを広くPRする ・連合町内会町内会長会議での町内会長への連絡で意思統一を図る ・単位町内会による文書連絡
学区地区への広がり	
前年度からの見直し	事業年度開始当初は、有志による活動であったが、実効的な声かけ・避難誘導の体制づくりには、学区内の全町内会・各種団体の参画が不可欠との判断より、年度途中より事業推進メンバーを大幅に拡充した。 しかしながら、メンバーの防災に関する意識、知識のレベルにばらつきがあり、活動の進展は順調とは言えない。 そこで、円滑な活動を推進するため、本年度は、 (1) 活動の目標を明確にして、意識統一、ベクトル合わせを図る 令和3年6月に、避難準備の声がけから、避難誘導・避難者受入れまでの総合的な実地訓練実施を目指し、本年度はそのための準備期間と位置付ける。

拡 充 点	(2) トップダウン型の啓蒙と、グループワークによる理解の促進 事業推進メンバー間の防災に関する意識・知識レベルのばらつきから、議論が円滑に進まない傾向にあり、トップダウン型の啓蒙で活動の方向性・指針の浸透を図るとともに、グループワークを多用することで、その理解を深めてもらうことで、活動の実効性を高める。
次 年 度 以 降 の 予 定	※今年度の事業を受けて次年度以後どのように活動を展開していくか、また資金の確保をどのように進めていくかをご記入ください。 ① 年度以後の活動計画 【令和3年度の重点目標】 避難準備声かけ、避難誘導、避難者受入れまでの総合的な実地訓練（豪雨災害） 【令和4年度の重点目標】 地震災害での活動検討に着手 ②資金の確保について ☒ 次年度も区づくり推進事業を申請する予定 ☐ () 年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。 資金確保の具体的な方策：
そ の 他 P R し たい 点	

事業スケジュール（企画会議や反省会も含めてご記入ください。日程が未定の場合は月だけで結構です。）

月日	活動内容
4月	・犠牲者ゼロプロジェクト運営会議 ・犠牲者ゼロプロジェクト全体会議 ・住民向け「マイ・タイムライン」講習会
5月	・犠牲者ゼロプロジェクト運営会議 ・犠牲者ゼロプロジェクト全体会議 ・住民向け「マイ・タイムライン」講習会
6月	・犠牲者ゼロプロジェクト運営会議 ・犠牲者ゼロプロジェクト全体会議 ・住民向け「マイ・タイムライン」配布
7月	・犠牲者ゼロプロジェクト運営会議 ・犠牲者ゼロプロジェクト全体会議 ・災害時情報伝達の試行
8月	・犠牲者ゼロプロジェクト運営会議 ・犠牲者ゼロプロジェクト全体会議 ・災害時情報伝達の試行
9月	・犠牲者ゼロプロジェクト運営会議 ・犠牲者ゼロプロジェクト全体会議 ・災害時情報伝達の試行
10月	・犠牲者ゼロプロジェクト運営会議 ・犠牲者ゼロプロジェクト全体会議 ・避難行動要支援者個別計画の検討
11月	・犠牲者ゼロプロジェクト運営会議 ・犠牲者ゼロプロジェクト全体会議 ・避難行動要支援者個別計画の検討
12月	・犠牲者ゼロプロジェクト運営会議 ・犠牲者ゼロプロジェクト全体会議 ・避難行動要支援者個別計画の検討
1月	・犠牲者ゼロプロジェクト運営会議 ・犠牲者ゼロプロジェクト全体会議 ・避難行動要支援者個別支援体制の検討
2月	・犠牲者ゼロプロジェクト運営会議 ・犠牲者ゼロプロジェクト全体会議 ・避難準備声かけ、避難誘導、避難者受入れまでの予備的訓練（豪雨災害） ・避難行動要支援者個別支援体制の検討
3月	・犠牲者ゼロプロジェクト運営会議 ・犠牲者ゼロプロジェクト全体会議 ・避難行動要支援者個別支援体制の検討

収 支 予 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	前年度予算	前年度見込	予 算 額	内 容
岡山市補助金	120,000	57,500	67,800	(100円未満の端数切捨て)
実施団体負担金	120,000	57,500	67,900	
参加者負担金				
協賛金				
寄付、他収入				
計	240,000	115,000	135,700	

◆ 支 出

単位:円

費 目	前年度予算	前年度見込	予 算 額	内容(必ず記載してください)
①消耗品費	32,400	25,000	30,000	次頁「支出予算の根拠」
②食糧費	55,200	20,000	32,000	次頁「支出予算の根拠」
③印刷製本費	122,400	70,000	73,700	次頁「支出予算の根拠」
④燃料費				
⑤光熱水費				
⑥通信運搬費				
⑦広告料				
⑧手数料				
⑨使用料・賃借料				
⑩原材料費	30,000	0		防災訓練炊き出し費用
⑪委託料				⇒自主防災会助成金活用
⑫工事請負費				
⑬報償費				
⑭保険料				
⑮旅費				
⑯その他				
計	240,000	115,000	135,700	

◆概算交付の要否 (いずれかに○をしてください)。(補助金額が20万円を超える場合のみ)

補助金の概算払いを	希望する	希望しない
-----------	------	-------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください

注①：前年度決算額が確定してない場合は、見込み額を記入してください。

注②：支出の費目は、消耗品費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・通信運搬費・広告料・手数料・使用料など適当な費目に分けて記入し、備考に積算内訳を記載してください。

※様式に入力される場合は、収入・支出欄は、エクセルのワークシートになっています。欄の上でダブルクリックして、ワークシートを表示させてから入力してください。

※記入欄に書ききれないときは、別紙として添付してください。